

東日本大震災で被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復旧・復興を祈念致します。

「廊下」美術部 2年 林 佳奈さん



飛翔

第 3 号

平成23年4月1日発行

発行

東大津高校 飛翔会

印刷

(有)シンコー印刷

「第3号飛翔会発刊によせて」

飛翔会副会長 久保 博



平素は東大津高校飛翔会の活動に対してご尽力賜りまして厚く御礼申し上げます。

この度多くの卒業生の声を届けられるように同窓会報「飛翔」3号を発行することが出来ました。さて、昭和50年に開校して以来今年34期生が卒業されましたが、変わらないのが、驚嘆く自然あふれる環境です。その中で勉強とグラウンド整備にあぐれ、整備したグラウンドで楕円形のホールを追いかけたことを思いだします。

月日は経ち、自分自身が子を持つ親となり、我が子の成長が気になるように、我が母校のことは気になるもので、東大津高校の状況や卒業生の活躍はうれしいものです。母校は今も県下有数の進学校でありながら8割以上の生徒がクラブ活動に打ち込んでいます。1期生からの伝統行事である3年間で100キロを目指す「耐寒

遠足」も続いており、ゴールに到着する生徒の姿は微笑ましいものです。飛翔会の役員も数年前からPTAの方々と共に耐寒遠足に参加とお手伝いをしております。寒い中ではありませんが、頑張る生徒たちを励ましなが最後までやり遂げる達成感を一緒に味わうのも良いものです。今後とも多くの卒業生の方々にもお手伝い、ご参加いただければ願っております。卒業以来、母校に来ることもない卒業生の皆様も大変多いと伺っております。平成24年の定期総会では母校での開催を予定しております。各方面でご活躍の卒業生の皆様が世代を超えた新たな出会いと懐かしい人や恩師と出会う事を期待して、お誘いあわせの上、多数のご参加をお待ちしております。



成長段階に応じた学び

学校長 萩野 恒男

飛翔会会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育の充実・発展に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年度も順調に経過し、生徒諸君はそれぞれが持ち味を発揮して頑張っております。中

私と東大津高校

八耳文之

東大津には、1985年から1993年まで8年間勤務した。転勤2年目で、3年(10期生)を担任することになった。学園祭では、文化祭・体育祭ダブル優勝で、卒業式にも担任としていい思いをさせてもらった。これは、途中で担任に入った私のために、先生方が配慮してくださったおかげであつた。次の年、1年生(13期生)を担任し、2年、3年と持ち上がった。1年を担任しているときに、恩師と父があいつぎ急死し、大きなショックを受け、おちこんだ。この間、指導が行き届かなかったことがあり、ご迷惑をおかけしたことを反省している。立ち直るのに、約3年の歳月



プロフィール
昭和60年から平成5年まで在任第2代校長・八耳順朗先生のご子息、社会担当現在玉川高校に勤務されています。

を要したが、ふたたび元気になる、授業への反応も手ごたえを感じ、東大津への愛着心を持つようになった。離任式で、東大津を母校のように思えるかと語ることができた。東大津を離れて、はや18年たつ。私の東大津への思いは強くなる一方である。東大津は、私にとっては母校以上の学校となつている。東大津出身者とかるとどうれしくなり、会話がはずむ。県立図書館に行くので、東大津はよく目に入っている。今後も、東大津を特別な思いで見守っていきたい。

社会は以前にも増して急速な変化をしています。教育分野の世界も然りです。しかし、どんな時代にあつても、私たちが決して忘れてはいけない大切なことがあります。それは「成長段階に応じた学び」です。本校では、知・徳・体の調和的発達を基調に、「確かな学力の向上」と「心の教育」を学校教育の両輪に位置づけ、「文武両道」をモットーに、更なる飛躍を目指して、更に一層努力する所存ですので、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。会員の皆様の益々の健康とご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。